

第2回高等研究院レクチャーを開催

第2回高等研究院レクチャー「マイクロ・ナノメカトロニクスへの衝撃」が、1月15日(金)、シンポジオンホールにおいて開催されました。

まず、近藤高等研究院長、濱口総長のあいさつの後、マイクロ・ナノメカトロニクス分野の最新研究成果についての講演が行われました。「マイクロ・ナノメカトロニクス」



会場の様子

とは、マイクロマシンやナノテクノロジーを応用して、従来の機械とはスケールや構造、製作原理まで全く異なった新しい微細技術を実現する技術の総称です。

まず、グローバルCOE「マイクロ・ナノメカトロニクス教育研究拠点」のリーダーである福田敏男工学研究科教授が「マイクロ・ナノメカトロニクスから夢のバイオロボットへ」と題して、マイクロ・ナノスケールに応じたマイクロ・ナノメカトロニクスの研究状況とその未来応用であるバイオロボットについて分かりやすく講演しました。

続いて、同拠点の佐藤一雄同研究科教授が「MEMS（マイクロメカトロニクス）に科学を：シリコン結晶異方性エッチングの物理化学」と題し、わずかなエッチング条件で異方性が大きく変化する現象について講演しました。引き続き、藤江正克早稲田大学創造理工学研究科教授が、「先進医療ロボットの楽しみ」と題し、マイクロ・ナノメカトロニクス技術のデバイスやシステムの人間健康・福祉社会への驚くべき貢献とその未来について講演しました。講演後には、活発な質疑応答が行われ、本学教職員、学生や一般の方々など約150名が参加した熱気溢れるレクチャーとなりました。